

2025総第32号

2025年5月7日

正会員殿

一般社団法人日本ガス協会

総務部長 桑名 朝子

日本ガス協会 会長会見「発言要旨」について

4月23日に行いました内田会長会見における冒頭発言の要旨をとりまとめましたので、別紙のとおりご報告申し上げます。

以上

担当：総務部広報グループ

TEL 03-3502-0112

## 日本ガス協会 内田会長 会見発言要旨

### 1. はじめに

本日は、①大阪・関西万博、②e-メタンに係る動向、の2点についてご説明する。

### 2. 大阪・関西万博について

4月13日に開幕した大阪・関西万博において、日本ガス協会は、「ガスパビリオン おぼけワンダーランド」を出展している。ガスパビリオンは「化ける、未来！」をコンセプトとし、バーチャルリアリティのおぼけの世界に没入し、未来に向かって「化ける」体験ができるエンターテインメントパビリオンである。e-メタンの社会実装に向けた取り組み等を紹介し、私たち一人ひとりが意識や行動を変えることで未来も変えられることを伝え、未来を担う子どもたちにエネルギーや社会について考えるきっかけを提供する。

万博が開幕して10日あまりが経過したが、お子さまから大人の方までおよそ3万人の方にガスパビリオンへご来館いただき楽しんでいただいている。都市ガス業界としては、万博を通じて、e-メタンをはじめとする、ガスのカーボンニュートラル化に向けた取り組みを広く世界に発信するとともに、万博会場におけるエネルギーのカーボンニュートラル化にも取り組んでいる。

万博会場におけるカーボンニュートラルガス供給の取り組みとして、大阪ガスが進めている万博会場内で発生する生ごみ由来のバイオガス中のCO<sub>2</sub>とグリーン水素を反応させ、都市ガスの主成分であ

るメタンを合成するメタネーション実証がある。CO<sub>2</sub>については、ボイラーの排ガスから回収する CO<sub>2</sub> や、DAC という新たな技術で大気中から回収した CO<sub>2</sub> を利用し、これらにより製造した e-メタンを会場内の迎賓館の厨房等へ都市ガスとして供給している。

また、国内各地の e-メタンやバイオメタンの製造プロジェクトで創出した「環境価値」を「クリーンガス証書」を用いて万博会場に移転する取り組みでは、各都市ガス事業者の取り組み成果を大阪に結集することにより、万博会場で利用するエネルギーのカーボンニュートラル化に貢献している。

### 3. e-メタンに係る動向について

先月の会見では、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、CO<sub>2</sub> 排出量を「過去からの累積量という面積」でとらえる「CO<sub>2</sub> 総排出量の削減」の視点が重要であり、まずは足元から累積 CO<sub>2</sub> 排出量を確実に抑制しうる「石炭・重油から天然ガスへの燃料転換」が有効であることをご紹介した。この点に関しては、先日開催された e-メタン議連（「GX における天然ガスの高度利用と e-methane 促進に関する議員連盟」）の会合でも強調された。今回は、視線を将来に向けて、e-メタンに係る動向についてご紹介する。

第7次エネルギー基本計画において、e-メタンは、水素等と同様に「2050年カーボンニュートラル実現に向けた鍵となるエネルギー」と位置づけられた。また、今後の e-メタンの市場創出や利用拡大に向けて、持続可能な形で投資が継続される環境整備の重要性が示され、CO<sub>2</sub> 削減価値の明確化や国際展開を推進していくことも示された。

都市ガス業界は、e-メタンの社会実装を目指して、まずは 2030 年

1%導入に向けて、海外での大規模製造から国内の地産地消に至る様々なプロジェクトの開発、e-メタンに関する国内外のルール確立に向けた機運醸成、製造コストの低減に資する革新的メタネーション技術等の開発を進める。さらに2050年に向けては、e-メタンを中心に、バイオガス、CCS、クレジットを含めた「多様な道筋」でガスのカーボンニュートラル化達成を目指す。

e-メタンの社会実装に向けた主な論点としては、①導入促進策、②環境価値取引の仕組み化、③CO<sub>2</sub>カウントルールの整備の3点があり、直近の検討状況としては、3月19日のガス事業制度検討ワーキンググループにおいて、e-メタンの社会実装に向けた短期的な規制・制度について整理が行われた。規制については、高度化法による2030年1%導入という目標設定、制度については、託送料金制度を活用し、LNGとの価格差を回収する方針が示される等、e-メタンの社会実装に向けた制度設計が具体的に進められている。

2025年度は、海外での大規模製造プロジェクトのFIDに向けた進捗や、国内のプロジェクトにおいてもe-メタンの製造とガス導管への注入開始が予定されている。都市ガス業界としても、引き続き、e-メタンの社会実装に向けた取り組みに注力していく。

以上